

- 1 地下道を風吹いてくる更衣
- 2 一步ごと如露より水のこぼれけり
- 3 緑蔭に赤子を寝かす体重計
- 4 裸身いま内より光り出しさうな
- 5 たちあふひ成層圏を吹く風よ
- 6 単線や青野に夜の降るやうに
- 7 梅雨深む壁一面の鏡かな
- 8 形代の触れてより水流れ出す
- 9 金星のやうに梅酒の梅沈む
- 10 月蝕やまるい金魚を愛しめる
- 11 形代の回覧板で回りけり
- 12 帰る道きらきらとして宵祭
- 13 笛吹けばけんけんで来て水着の子
- 14 整列の頭並べて夏の雲
- 15 凌霄花路上に髭を剃られぬる
- 16 白靴や何かの種のこぼれ出し
- 17 目まとひの一匹は伝令らしい
- 18 蟻走る母のてのひら子のてのひら
- 19 螢火のやうに待ち針打たれある
- 20 砂粒の光り出したる水着かな
- 21 潮鳴りや夕焼の髪を解きをれば
- 22 胸にまだ夜のプールの匂ひかな
- 23 考へるシャワーを強く強くして
- 24 山彦のつひに戻らず夏の果
- 25 はたた神来て臍の緒を切られけり
- 26 待つ人の傘うつくしき星祭
- 27 どこかからトルコ行進曲九月
- 28 フラスコのふれあふ音や水の秋
- 29 新涼や肌着の袋ぱりと開く
- 30 やはらかき土踏んでくる朝の鹿
- 31 虫売りの水のほとりを通りけり
- 32 色鳥や父の胸からハーモニカ
- 33 でこぼこの学級文庫罅雲
- 34 子に話す生れし日のこと星月夜
- 35 眠る子の指より桃の匂ひかな
- 36 月光やくるりと胎児回り出す
- 37 水紋のふれあひてまた澄みにけり
- 38 鳩吹きし手をそのままに水掬ふ
- 39 コンパスの針定まらぬ昼の月
- 40 発熱の兆しかすかに石榴割る
- 41 どこまでも水音ついてくる月夜
- 42 月の客メビウスの輪を落としけり
- 43 晩秋の水際へ来てラムプ吊る
- 44 ひかるもの集まつてくる神楽かな
- 45 また川へ戻るあやとりバスの午後
- 46 風船の影に色ある小春かな
- 47 くしやみの子森の絵本をさかしまに
- 48 恐竜の話してゐる蒲団かな
- 49 白衣より飴の出てくる小六月
- 50 胎の子にてのひらほどの聖樹買ふ

- 75 目と鼻をつけ桃の日の紙コップ
- 74 桃の日のマトリョーシカの下がない
- 73 箱の底まで明るきよ雛日和
- 72 小魚を煮て啓蟄の雨ならむ
- 71 試験管窓へかざして雪解晴
- 70 大試験明るき席につきにけり
- 69 逆子体操してバレンタインの日
- 68 しんしんと水に沈みて花の種
- 67 国ひとつ滅ぼしてきて降る黄砂
- 66 立春大吉川底を石動き出す
- 65 ほうほうと春は名のみのリコーダー
- 64 雪解の音に囲まれゐて眠る
- 63 胸に耳あてれば冬の火花かな
- 62 白粥を掬へばしずかなる冬芽
- 61 まひるまや枯野を過るレース鳩
- 60 大寒の博多鉄を打つ火かな
- 59 悴む手ふれてやさしきこと言へず
- 58 初買ひの車に一人づつ男
- 57 踊り場に人体模型雪もよひ
- 56 鬼火いま触れたかシャーレ結晶す
- 55 きちきちと脚を畳みて鶴歩む
- 54 冬の月欠けてしづかな展翅板
- 53 星入れて降誕祭の化石かな
- 52 父よりの間違ひ電話クリスマス
- 51 灯されて聖樹となれり遠汽笛
- 76 蟻穴を出て索引のあたりかな
- 77 草萌や脱がされて子の走り出す
- 78 春寒やきれいな声で叱られて
- 79 ピザの箱潰れてゐたる花見かな
- 80 花冷えの耳のかたちをなぞりける
- 81 採血の痕あをざめてゐる櫻
- 82 穴あれば穴覗き込む春休み
- 83 いろいろの野菜屑ある四月馬鹿
- 84 円柱に蛹殖えをり春の月
- 85 昼暗き実験室やヒヤシンス
- 86 種を選ぶ音かすかなる夜のシャーレ
- 87 春服の夫や森の匂ひして
- 88 空色の鳥の卵を拾ふ野よ
- 89 幾度も覚めては眠り抱卵期
- 90 春愁のやうな小石が靴の中
- 91 亀鳴くやインド数学語る人
- 92 校長先生弁当箱を洗ふ春
- 93 恋猫の事の次第の日記かな
- 94 ポケットのとび出してゐる春の服
- 95 春爛漫ぐるぐるまはるこどもかな
- 96 嘘ばかりつく子で母で百千鳥
- 97 亀鳴いて予防接種の列に入る
- 98 万緑の踊り場に泣く子どもかな
- 99 夫の髭どこまでも伸ぶ豆の花
- 100 メーデーの平均台を歩き出す